

第3回埼玉県まち・ひと・しごと創生有識者会議の議事概要

日時：平成27年9月28日（月）

10:00～11:50

場所：埼玉県庁本庁舎2階 庁議室

○「埼玉県まち・ひと・しごと創生総合戦略（仮称）」に係る質疑・意見交換の主な発言

- ・ 企業の承継問題については、税制の見直しが必要である。相続税など、税負担が大きく問題だ。
- ・ 中小企業が抱えている課題は、販路拡大と事業承継である。地元就職したくても、将来が不安定な企業では難しい。創業支援も大事だが、事業継承に対する施策が必要だと思う。
- ・ 積極的に正規雇用を実施する企業を増やしていく必要がある。
- ・ 戦略の内容を見ると、正規雇用を念頭に置いた記載となっている。パートやアルバイトなどの非正規の雇用に対する取組も重要である。
- ・ 例えば、非正規雇用同士のカップルに県営住宅を無料で貸し出すといった取組があっても良いのではないか。
- ・ 集中的に予算を投下して、ニートに働いてもらうようにすべきである。
- ・ 県職員の新規採用を10年位行わず、その間に女性やニートを雇用する取組を実施したらどうか。
- ・ 女性のパート・ワークシェアリングの研究チームを立ち上げてほしい。東京的なキャリアアップを前提とした正規雇用ばかりではなく、埼玉的な働きたい時に働ける制度を作っていくべきだ。
- ・ 行政としてモデルになるような企業を作っていくことが大事ではないかと思う。例えば、IPO（株式公開）を目指す企業を支援していくような取組はどうか。
- ・ 第3子を産んだら県税を免除してもらえようような結婚した人が子供を産みやすい仕組みづくりが少子化対策には必要だと思う。そして、それにより企業も第3子の出産に対する手当を設けるといった流れができればよい。
- ・ 結婚しない人の増加が出生率を下げているので、ここの部分への対応が必要だと思う。
- ・ 戦略策定に当たっては、弱者への視点が必要だと思う。生活困窮者支援も大事であり、子供の貧困対策も重要となってくると思う。
- ・ 介護による離職の問題もある。弱者に対してどう視点を当てていくのかを考えてほしい。
- ・ 埼玉県の半分は林。九州の事例のように間伐材を用いて完全有機堆肥を作り、地下水を汚さない農業を埼玉県の売りとしてはどうか。
- ・ 現状の分析をしっかりと行い、課題を明確化して、KPIを作り込む必要があると思う。
- ・ 東京圏に位置する利点を生かした埼玉県ならではの戦略が必要だと思う。
- ・ 市だけの取組、県だけの取組には限界があると思う。企業誘致は地球規模となっており、より具体的なインセンティブが必要となる。ベンチャー企業をどうやって育てていくか、具体的な取組を出していく必要がある。
- ・ 人を呼び込むに当たっては、ターゲットを明確にしていくべきである。神奈川県以西から埼玉県への人口移動はあり得ないので、全国に発信することはやめてもよいと思う。東日本、特に新幹線沿線を軸に埼玉の良さをアピールしていくことが人口集積につながる。